

準備して待つ

安倍等思

時の流れは皆に平等であることに間違いはなかろう。怠惰に過ごすか、勤勉に暮らすか。我がために生きるか、進んで苦をとるか。ところが、時代は平等とはいかない。古くから「家貧しくして孝子現れ、世乱れて忠臣を知る」と言われるように、ある悪条件下に必要な人が見えるのである。つまり、時の流れの中にはいつも孝子も忠臣もいるのであるが、時代が光を当てるのである。つまり、それを育てることを常々怠ってはならないとも言うことであろう。一旦、忠臣が現れるとそれにつきものは妬みである。妬んでいる自分を自覚しないと周りも迷惑する世界が広がっていく。それは人に褒めてもらいたい、評価されたいという本来持つべき向上心の裏返しでもある。とどのつまり、時代が光を当てたか否か、運次第である。準備して待つ人を育てるのが大学の使命のひとつであろう。